

**2026年**

**青森県U12カテゴリー インテグリティ研修**

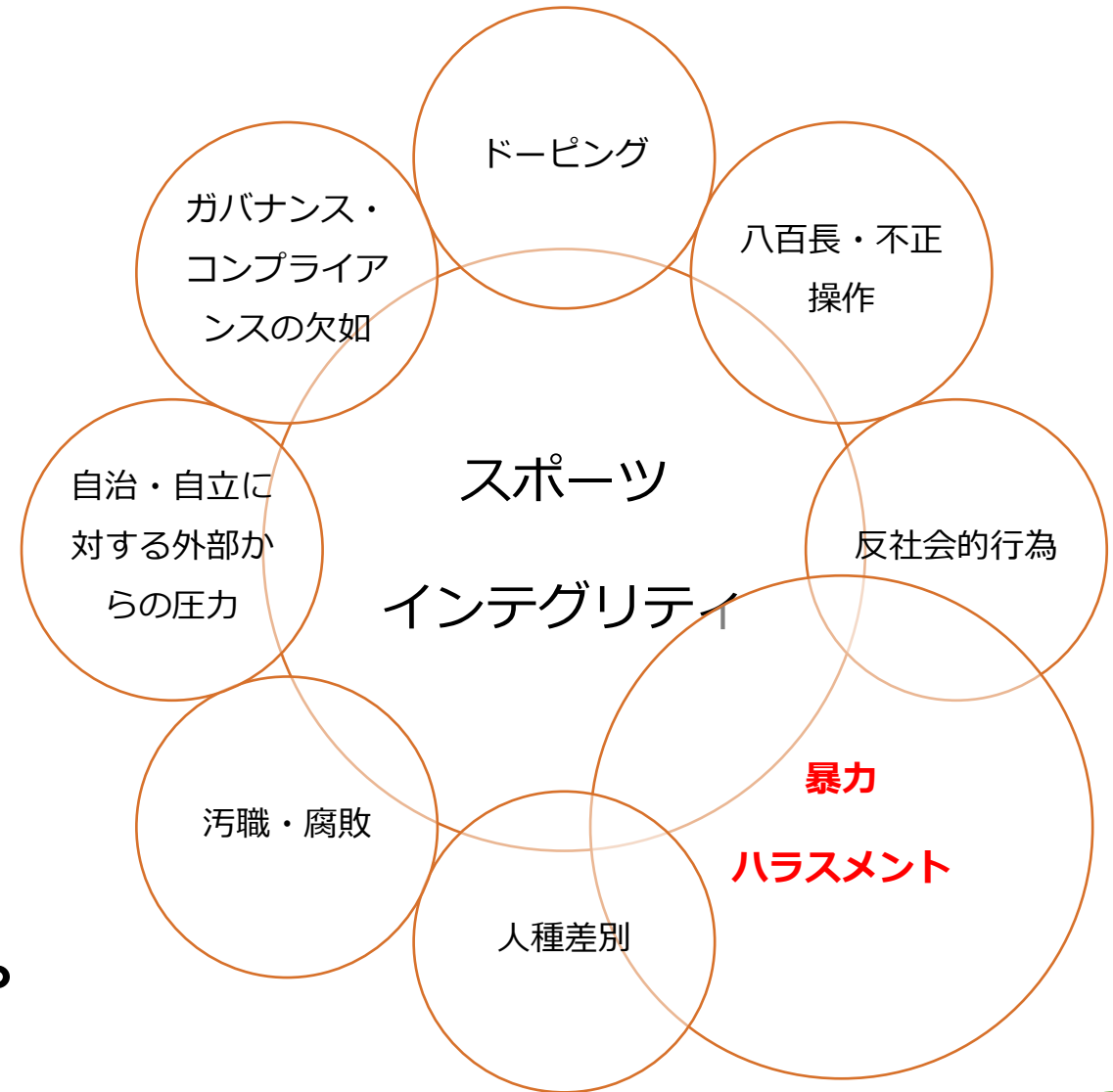


1. インテグリティを周知をし、子どもたちが健やかに楽しくバスケットボールを行える環境づくりを行う。
2. 暴言、暴力の根絶に向けて指導者の意識改革を行う。
3. U12カテゴリーでは移籍理由として「人間関係」が多いため、改善していく必要がある。
4. チーム運営の参考となるよう【研修会】を実施。

# インテグリティについて

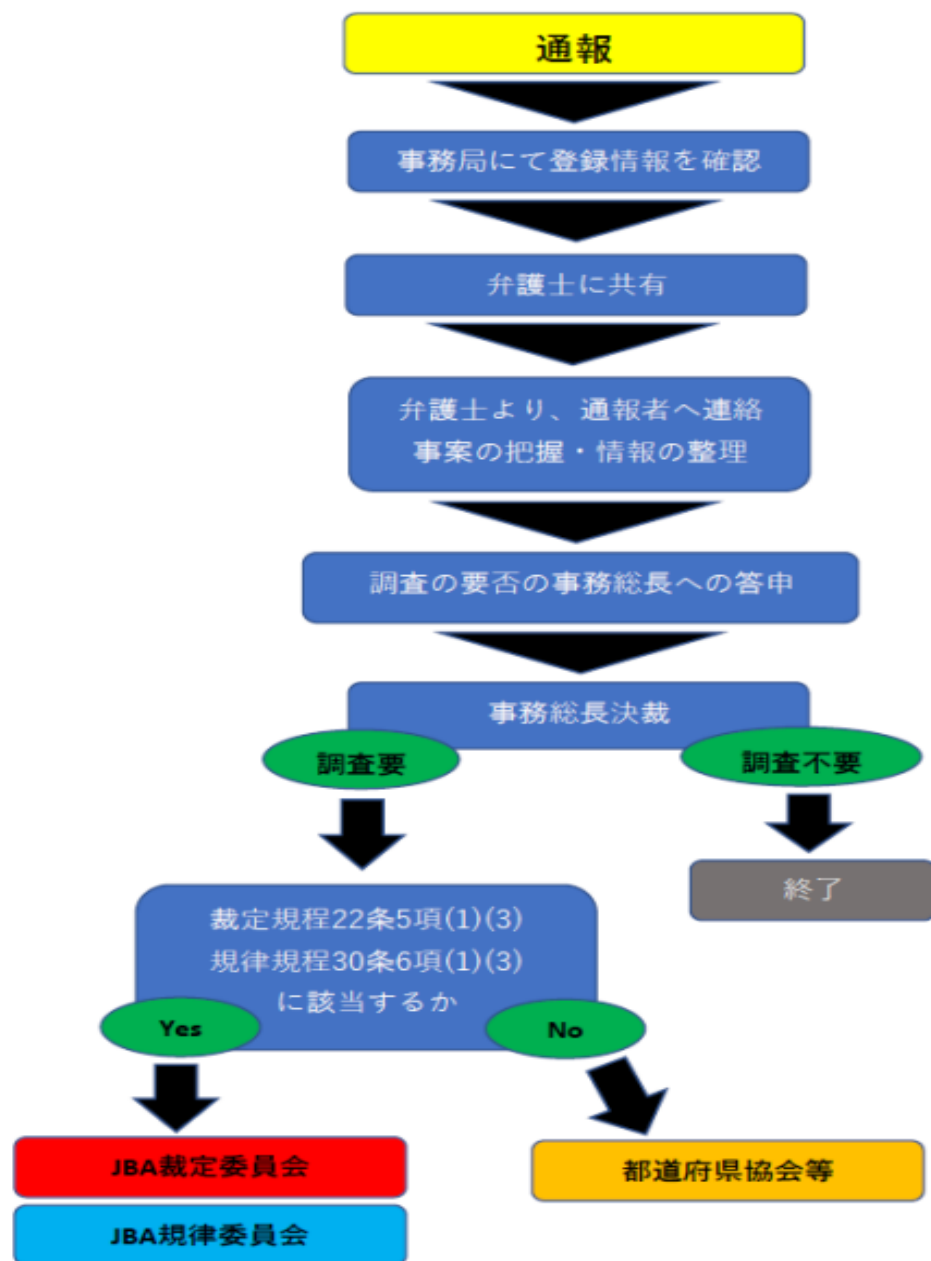
「インテグリティ」とは  
誠実さ・真摯さ・高潔さを表す  
言葉です。

一人一人が高い意識を持つことで  
規律、裁定案件を未然に防ぎ  
JBA指針の  
「クリーンバスケット、クリーン  
ザ・ゲーム」に則り  
暴言暴力根絶を目的としています。



# 2025年度青森県競技者・指導者登録者数

区分		R3	R4	R5	R6	R7
選手（小学生）	男	1,687	1,735	1,847	1,794	1,625
	女	2,132	1,920	1,893	1,669	1,606
	計	3,819	3,655	3,740	3,463	3,231
選手（中学生）	男	1,482	1,394	1,492	1,417	1,499
	女	1,286	1,209	1,176	1,152	988
	計	2,768	2,603	2,668	2,569	2,487
選手（高校生）	男	1,038	1,018	944	979	953
	女	615	626	603	545	559
	計	1,653	1,644	1,547	1,524	1,512
選手（大学生）	男	125	96	123	148	130
	女	72	58	47	47	60
	計	197	154	170	195	190
選手（社会人）	男	90	65	73	47	179
	女	42	29	39	49	75
	計	132	94	112	96	254
指導者	男	652	474	493	554	508
	女	271	154	172	223	191
	計	923	628	665	777	699
合計		9,492	8,778	8,902	8,624	8,373
前年比			△ 714	124	△ 278	△ 251



通報

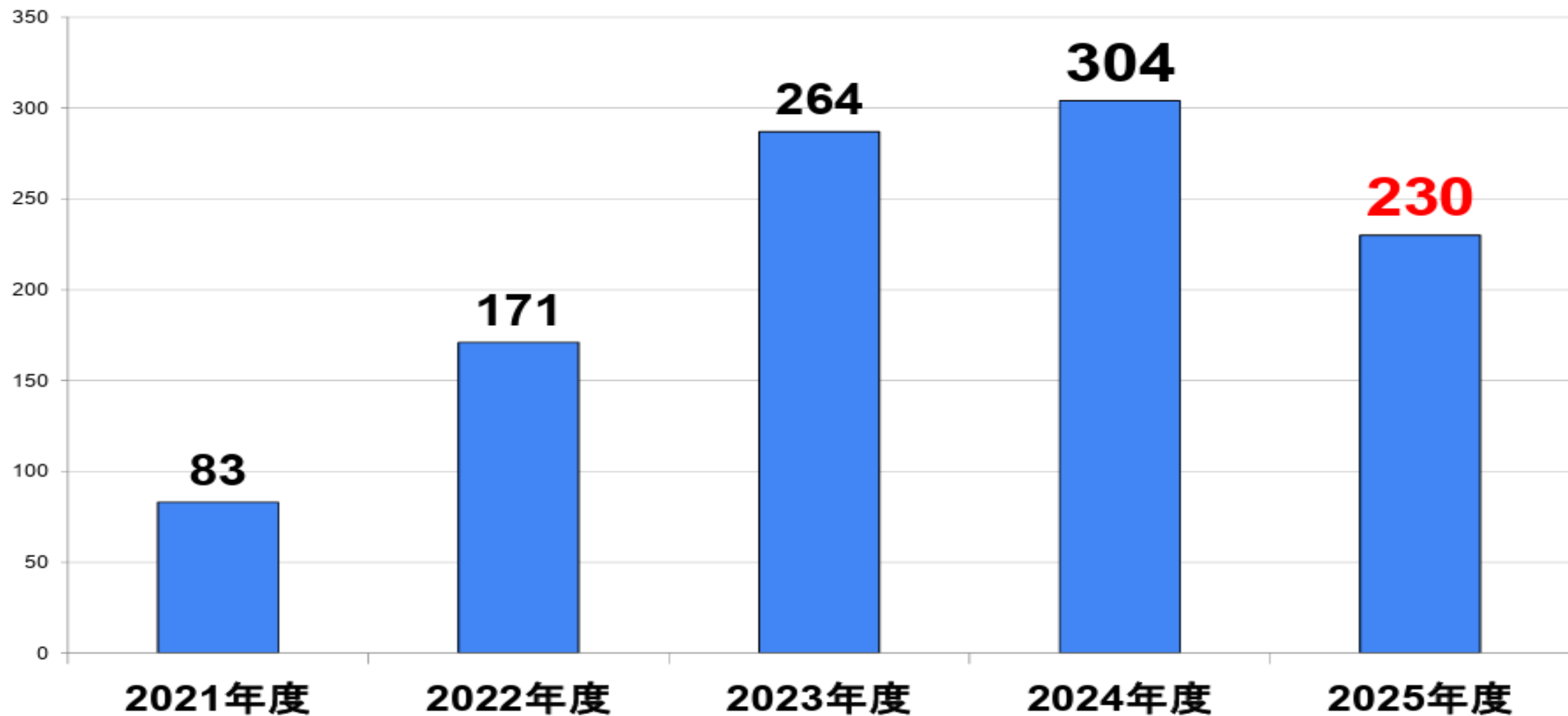
- 通報対象者の登録有無を確認
- 担当弁護士によるメール・電話での聴取
- 聴取内容をまとめ、調査の要否を判断

**調査が必要と判断された場合**

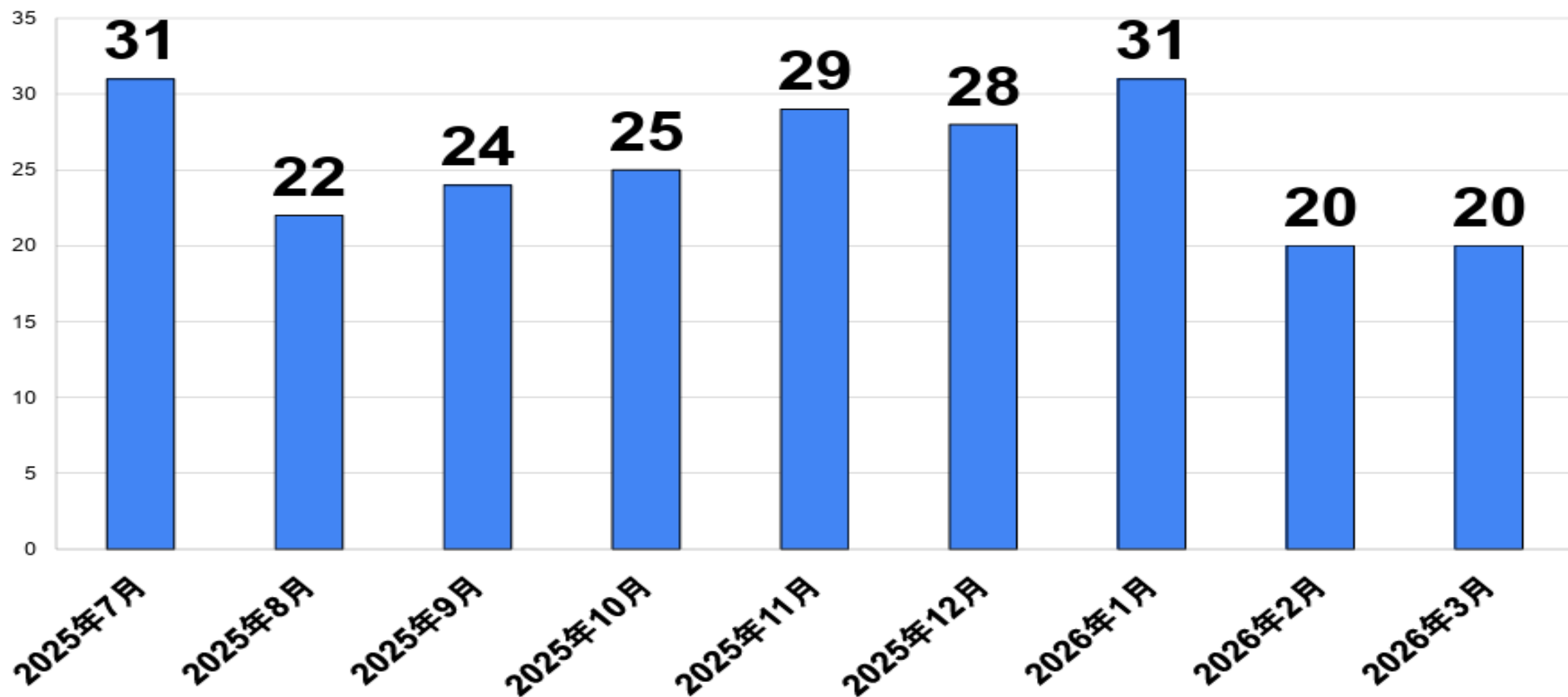
調査対象者が保有するライセンス等により、JBA裁定委員会又はJBA規律委員会もしくは都道府県協会等に調査が付託される。

**※S～C級コーチライセンス（JSPO協同認定資格）保有者はJBAが取り扱う**

通報累計：230件【期間：2025年7月1日～2026年3月26日時点】



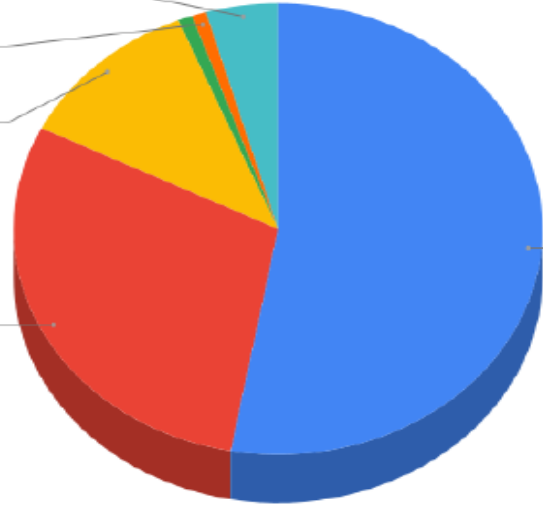
通報累計: 230件【期間: 2025年7月1日～2026年3月26日時点】



## 通報累計：230件【期間：2025年7月1日～2026年3月26日時点】

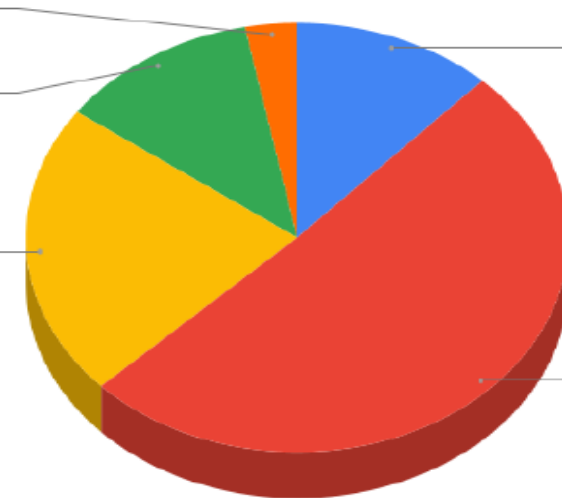
種別

4.4%  
その他  
0.9%  
U18  
11.5%  
U15  
29.5%



分類

3.1%  
その他  
暴力  
11.9%  
ハラスメント  
22.1%



# 暴言暴力根絶へ向けて

～指導のつもりで暴言を吐いていませんか？～

人格を否定するような言葉は、特に気を付けなければなりません。  
“自分は一生懸命指導をしているだけだ”と思っているだけでも  
第三者から見た場合、明らかに暴言だと認識される場合もあります。  
自分が気づかないうちに、こういった言葉を発してないか、いままでの指導方法を  
正当化せず客観的に見つめ直してみてください。

例

◇大きな声での指導◇

行き過ぎた大きい声は、選手を萎縮させ周りの目を意識しすぎてしまうこともあります。  
大声を繰り返し、コントロールするようなことはあってはなりません。

◇人格、人権、存在を否定する言葉◇

「そんなこともできないのか」「へたくそ」などは人格否定の言葉です。  
感情が先走った発言をしないように、注意してください。

## U12育成世代で重要なこと

U12世代は勝利主義ではなく、バスケットボールを通じて元気になり、のびのびと取り組める環境作りが大切だと考えます。

子どもたちの「楽しさ」という気持ちを中心に、試合に勝つことだけではなく、上達して褒められたときや、仲間と一緒にプレーしてるときなど、子ども一人一人の「楽しさ」を認め、見守ってください。

大人たちは、安心安全な暴言暴力のないバスケットボール環境の実現を、目指してください。

スポーツは嬉しさだけでなく、うまくいかない挫折も経験します。仲間との人間関係から生まれる絆、チームルールを守ることで身につく規範意識など、様々な経験をすることができます。

1つ1つの成功体験が大切です。その数をより多く体験できるような環境づくりを心がけましょう。そしてその経験を少しずつ大きくしましょう。

国際オリンピック委員会では「それぞれの成長度に合わせ、練習やトレーニングにアプローチしていくべき」と提言しています。

## U12 カテゴリー登録運用細則

### (目的)

第1条 この細則は、公益財団法人日本バスケットボール協会（以下、「JBA」という）基本規程の第3章 所属団体、第4章 競技者、第5章 登録および移籍に基づき、U12 カテゴリーにおける登録の運用に関して必要な事項を定める。

### (対象チーム)

第2条 この細則の対象となるチームは、JBA 基本規程 第3章 所属団体、第2節 加盟チームに定める、加盟種別がU12（以下、「U12 カテゴリー」という）のチームとする。

### (対象競技者)

第3条 この細則の対象となる競技者は、登録年度の4月1日時点で12歳未満の者とする。ただし、過年齢であつても小学校に就学している競技者の登録は認める。

### (登録の条件)

第4条 U12 カテゴリーのチームに登録する場合は、次の1.2.の条件とともに満たすこと。

1. 競技者の主たる居住地から当該チームの主たる活動場所まで安全に無理なく集合して活動し、活動後は安全に無理なく帰宅できる範囲のチームであること。
2. 競技者の移動中の安全の確保について、当該競技者の保護者が責任をもって行える環境であること。

(雑則) 本細則の改廃は、アンダーカテゴリー部会を経て部会長が行う。

(附則) この細則は2019年4月1日より施行する。

# 移籍について

- [JBAU12カテゴリー移籍ガイドライン](#)に則った手続きをお願いします。
- ※県協会からの移籍承認連絡前に、TeamJBAで申請を行っても移籍完了と認められません。
- ※移籍の承認にはお時間がかかります。

～下記ガイドラインからの抜粋 承認の目安～

移籍申請書 受付期間		結果通知（目安）	TeamJBA 登録手続き
4月～1月	各月 1日～15日	申請翌月の1日頃	承認後、原則 14日以内
	各月 16日～月末	申請翌月の15日頃	承認後、原則 14日以内
2月～3月	2月 1日～3月 31日	翌年度の4月 15日頃	承認後、原則 14日以内

# 移籍について注意点

- U12カテゴリーでは同じ環境で継続的に育成されることが望ましいが、勝利主義により移籍を行う事例がある。強化を目的とした移籍は本来認められないため、人間関係を理由として意図的に移籍申請を行うことがある。
- 指導者が保護者に対して「トラブルが起きた事にすれば、移籍ができる」とようなアドバイスを行っている。
- 移籍承認申請は、ガイドラインに沿って遂行しているのに「〇〇の大会に出場したいので早く承認してほしい」や「今回は特別な処遇をお願いしたい」等の個別対応は行っていない。
- 移籍元からの承認をもらうのが億劫という理由で、漢字を一字変えて二重登録をすり抜け、登録されている事例があった。「例：澤→沢」
- 一度、競技者登録した選手はずっと同じIDを使用して登録を行う必要がある。U12カテゴリーの移籍のみならず、U15カテゴリーへ上がる場合も同じIDとなるので、チーム責任者のみならず、競技者も必ず自身のIDを把握していること。

## U12 カテゴリー-移籍運用細則

### (目的)

第1条 この細則は、公益財団法人日本バスケットボール協会（以下、「JBA」という）基本規程の第3章 所属団体、第4章 競技者、第5章 登録および移籍に基づき、U12 カテゴリーにおける移籍の運用に関して必要な事項を定める。

### (対象チーム・対象競技者)

第2条 この細則の対象となるチームおよび競技者は、U12 カテゴリー-登録運用細則第2条および第3条に定めるチームおよび競技者とする。ただし、U15 カテゴリーのチームに所属する、登録年度の4月1日時点で10歳以上の競技者が、U12 カテゴリーのチームに移籍する場合は、この細則の対象競技者とする。

### (移籍の定義)

第3条 U12 カテゴリーにおいては、これまで登録していたチームとは異なるチームに登録することを移籍とする。

1. U12 カテゴリーのチームに登録している、登録年度の4月1日時点で10歳以上の競技者が、U15 カテゴリーのチームに移籍する場合は、この細則の第4条は適用しない。
2. U15 カテゴリーのチームに登録している、登録年度の4月1日時点で10歳以上12歳未満の競技者が、U12 カテゴリーのチームに移籍する場合は、この細則を適用する。

### (移籍の条件)

第4条 この細則の対象となる競技者の移籍は、次の1.2.における「特別な事情」があれば認める。

1. 転居
2. 人間関係等のトラブル

### (移籍の回数)

第5条 移籍の回数の制限は設けない。

### (移籍の承認)

第6条 U12 カテゴリーにおける移籍の承認は、以下の通りとする。

1. 移籍の承認は移籍元チーム及び移籍先チームの所属する都道府県協会が行う。  
但し、移籍承認者が U12 カテゴリーのチームの関係者または競技者または関係者である場合は、都道府県協会が別途移籍の承認を行う者を定めること。

### (移籍の申請)

第7条 移籍の申請は、次の通りとする。

1. 移籍を申請する者は、「U12 カテゴリー-移籍申請書」に必要事項を記入し、TeamJBA（会員登録管理システム）を通じて移籍申請を行う。
2. 都道府県協会は、移籍の申請を受理してから原則14日以内に移籍の可否を行う。

(補則) 本細則の改廃は、アンダーカテゴリー部会を経て部会長が行う。

(附則) この細則は2019年4月1日より施行する。

2023年7月1日一部改定



## U12 カテゴリーチーム運営基本指針

### ■ 目的

チームを取り巻く環境の変化に伴い、チーム運営の在り方を見直すことが求められています。健全なチーム運営に資することを目的として「U12 カテゴリーチーム運営基本指針」を策定しました。

運営スタイルが現在の倫理や価値観と相違しているものや想定していなかった事案が原因で、チーム内の軋轢に発展するケースが見受けられます。このような状況を未然に防ぎ、健全なチーム運営を行うために、各チームそれぞれの立場から時代に即した見直しを図られますようお願いします。

### ■ 理想的なチーム作りと運営方法

理想的なチームとは、各種トラブルを回避し、子どものよりよい成長のために活動するチームです。

理想的なチーム運営とは、規約や活動方針を時代に即し、見直し、指導者と保護者が十分にコミュニケーションをとりながら諸問題を未然に防止することに加え、子どものよりよい成長のために協働することです。

チーム作り・運営を行うために、チーム規約に則り、様々な事項について共通理解を図りながら、共通行動を必要とします。細かな確認事項や協議事項に対し、合意形成を図りながら運営することが最も重要です。そのために、チーム内で「責任者（代表者）」を明らかにし、子どもの健全育成に向けた視点でチーム運営をすることが重要です。

また、チーム内の「責任者（代表者）」とは、チームの理念や目標、育成マインドに基づく指導のあり方、保護者の関わり方などチームの運営全般において、意思決定に向けた話し合いなどを調整し、意思統一をできる者です。

なお、TeamJBA（会員登録管理システム）におけるチーム責任者は登録担当者の意味合いで使われており、このチーム運営基本指針で示す「責任者（代表者）」とは意味合いが異なります。

### ■ チーム運営における基本的な確認事項

1. 年度末もしくは年度当初に年 1 回総会を開き、以下のことを決定します。
  - (1) チームの運営基本方針
  - (2) チーム責任者（代表者）
  - (3) 保護者会代表ほか運営体制
  - (4) 決算・予算
  - (5) 年間活動計画
2. チームとして意思決定を要する場合は、チーム責任者が中心となって意思統一を図ることとします。
  - (1) 指導者と保護者が十分にコミュニケーションをとりながらチーム運営を進めること。
  - (2) 話し合いを持つ場合には記録をとること。



## ■チーム規約の作成

チーム規約とは、チームの組織や運営についての根本的な規則を文書化したものです。

チームの指導者や保護者が共通認識をもち、円滑に活動をすすめていく上で非常に大切な役割をもつことから、規約の作成にあたっては以下の内容を網羅することが重要です。

※チーム規約の作成は、2024年度から推奨とします。

### <チーム規約項目>

- (1) 名称・所在地
  - チームの名称
  - 主たる活動場所（市区町村など）
- (2) チーム理念（活動方針）
- (3) 入会・退会方法
- (4) 会計
- (5) 組織体制・役員
- (6) 会議
  - 総会
  - 役員会
  - 臨時会 など

## ■登録にあたって

チームを作るためには、チーム加盟、競技者登録、指導者登録、指導者登録、会場確保、備品購入などが必要になります。

チーム加盟・指導者登録・競技者登録については、インターネット上で「TeamJBA」を通して手続きを進めます。加盟・登録とは、日本の「バスケットポータルファミリー」の一員になることであり、日本バスケットポータル協会（以下、JBA）や都道府県バスケットポータル協会が主催する大会や講習会、イベント等に参加する権利を得ることです。

全国から集まった加盟・登録料を、日本のバスケットポータルファミリーの皆様にも様々な形でバスケットポータルを楽しんでいただくために、そして日本のバスケットポータルが強くなるために、多様な大会や環境づくりに役立っています。

### 1. チーム加盟 【代表者情報の登録、コーチ、審判とも1名以上の登録が必須】

チームは代表者、コーチ、審判などのスタッフと競技者で成り立っています。まず、年度当初にチームの加盟手続きを行います。その際、代表者、コーチ、審判などの登録を行う。次に競技者の登録を行い、必要な「チーム加盟料」「競技者登録料」をすべて支払うことで、登録が完了します。ライセンスを持っていないコーチや審判を登録することも可能ですが、大会等に参加する場合は、各大会等で定められたコーチライセンスや審判ライセンスの保有が必要になる場合があります。



## 2. 指導者登録

子どもたちにとって安心、安全な環境を構築することやスポーツの楽しさを広げていくこと、さらには人間力・競技力の向上に寄与するために、コーチに必要な知識・能力等を身に付けることを目的にコーチライセンス制度が設けられています。コーチライセンスは各大会等に参加するためだけでなく、普段子どもたちに指導を行うために必要な知識とスキルを学ぶという意味で、子どもに直接指導を行う者は取得する必要があります。ライセンスラシは様々あり、大会参加条件に規定もあるので、それぞれの大会要項等で確認が必要です。

## 3. 競技者登録

子どもたちは、まずチームに所属する必要があります。登録年度の4月1日時点で12歳未満の者とし、「①競技者の主たる居住地から当該チームの主たる活動場所まで安全に無理なく集合して活動し、活動後は安全に無理なく帰宅できる範囲のチームであること」「②競技者の移動中の安全の確保について、当該競技者の保護者が責任をもって行える環境であること」といった条件を満たした者が希望チームに所属できます。その後、インターネット上から活動するすべての競技者について個人登録を行います。U12については、チーム責任者がチーム登録と同時に競技者登録を一括で登録することになります。競技者の所属先チームについては、各チームによって方針や活動内容が様々であるため、あらかじめ見学や体験をするなど、自分にあったチームに所属することが可能です。なお、3年生以下のJBA登録料は無料となっています。

## 4. 競技者の移籍

U12世代は、育成年代であることから長期競技者育成理論（LTAD）に基づき、個々の発達段階に合わせた指導を行うため、長期的な視野で指導環境の構築や指導を行う必要があります。そのため、育成年代の競技者に対する指導環境や活動環境が度々変わることは好ましくないとの考えから、基本的に移籍は想定されていません。ただし、「①転居」や「②人間関係等のトラブル」といった特別な事情による場合には移籍を認めています。特に人間関係のトラブルにおいては、子どもたちだけではなく、コーチや保護者など大人の事情によるトラブルが子どもたちにとって良い影響を及ぼす可能性があることを想定しており、ハラスメント対策でもあります。

移籍による環境の変化は、子どもたちにとって必ずしも好転するとは限っておらず、居住地域を離れる場合の移籍においては、バスケットボールだけでなく、地域や学校などの「仲間づくり」という観点からも慎重に考えなければなりません。したがって、保護者や子どもたちが所属チームを選択される場合は、様々な観点からよりよい選択が出来るよう、十分に正確な情報提供が必要になり、ましてや大人の事情で子どもたちの環境が悪化するようなことは避けなければなりません。やむなく移籍をする場合においても、移籍元、移籍先チームの状況をしっかり見極めた上で、決して大人の感情的な感覚や目先の結果だけに捕らわれず、子どもにとって楽しくバスケットボールが行える環境を一番に考えることが大切です。

チーム規約は作成されているか。

- ・選手の負担にならない時間帯、練習日数となっているか。
- ・問題が発生した際の責任者(チーム責任者、保護者代表)は、規約に明記されているか。
- ・チーム責任者は、指導者？保護者？  
TeamJBA上のチーム責任者と、実際の代表者が異なる場合がある。
- ・指導方針や会計報告など定期的に行われること。

# チーム運営について（会計）

- 集金は銀行振込などで必ず記録が残るようにする。
- 少なくとも年に1回は会計報告を行い、第三者が監査を行うこと。
- 以下の3つの役割は出来る限り別々の担当者とする。
  - 「物品の購入・管理担当」  
チームで必要な備品・グッズなどの補充や、在庫の保管場所を決める。
  - 「お金担当」  
現金や銀行口座の管理、経費発生や物品購入の際に実際にお金を支払う。
  - 「会計記帳担当」  
お金を受け取ったり支払いなどでお金が動いたときに、その記録を会計帳簿に記入する。

実際には人員不足により難しい場合も想定されます。その場合は出来る限り  
**「お金担当」**だけは独立させるよう努めてください。

# バスケットボールが 楽しい!

U12カチゴリー  
指導ガイドライン



楽しみながら学ぼう!

http://jba.or.jp/under12

## 育成マインドの伝達

U12世代では、子どもたちが「心からバスケットボールが楽しい」と実感させることが重要です。スポーツは勝つことから「楽しさ」「達成感」などを学び成長も見られますが、「子ども」の意思や思考が含まれない「勝ち方」を敬遠する勝利至上主義では、子どもたちに本来の意味でのバスケットボールの楽しさを伝えることができません。この年代では、子どもたちの成長を見届けた指導が求められます。そのため、コーチは「個の育成の重視」すなわち「育成マインド」を持ち指導に携わることが不可欠とされます。



U12  
子ども、親に伝える

U15  
習得・育成  
チーム練習

U18  
育成年代から強化へ移行する  
タレント育成



「新しい」指導を習得する

「個の育成」下  
を実践する  
「個々の成長を促す」という  
「育成」が「習得」の糧が伸びる

## 育成世代の目的

- ①子どもたちが自らに期待を込めてのバスケ・ネットボールを遊びを通じて楽しむこと。
- ②子どもたちがバスケットボールを楽しく、そして成長を促すこと。
- ③バスケットボールを通じて、子どもたちが自らに期待を込めてのバスケ・ネットボールを遊びを通じて楽しむこと。

バスケットボールを通じて、  
ライフスキルを学ぼう

プレイヤー主体で考えてみよう

「楽しさ」を大切にしよう

## 育成世代の基本方針

- ①心から楽しむバスケットボールを遊びを通じて楽しむこと。
- ②子どもたちが自らに期待を込めてのバスケ・ネットボールを遊びを通じて楽しむこと。
- ③バスケットボールを通じて、子どもたちが自らに期待を込めてのバスケ・ネットボールを遊びを通じて楽しむこと。

## 育成世代の目標

日本人からは、選手もバスケットボール指導の生活基について、積極的に話し合う機会も設け、心豊かな成長を促すためのバスケ・ネットボール指導の発展を期待します。  
子どもに期待を込めてのバスケ・ネットボール指導の発展を期待します。  
子どもたちが自らに期待を込めてのバスケ・ネットボールを遊びを通じて楽しむこと。

「勝利」の捉え方を考えよう

## プレイヤーのための5つの心得

チャレンジ精神を  
忘れずに、いつも  
全力を尽くそう

ルールや判定に  
したがろう

試合や訓練する  
すべての人に  
感謝しよう

よいマナーを  
心がけよう

学習活動も  
一生懸命やろう

## 調和的情熱(ハーモニアス・パッション)で子どもたちと接しよう

アスリート・センター・D・コーチングとは、アスリートを中心に置いたコーチングであり、コーチは情熱を持って子どもと接することが求められます。ただし、コーチ自身の名声などを得るための執着的情熱(オプセッシブ・パッション)では、プレイヤーの存在を無視した一方的なコーチングにつながります。  
アスリート・センター・D・コーチングに求められる情熱は、プレイヤーとコーチがお互いに関わり合いコミュニケーションを取り、尊重、信頼し合うことです。さらなる向上を願って、共に努力する調和的情熱(ハーモニアス・パッション)で、子どもたちと接することが重要です。

GOOD!  
やっ  
ほしいこと

- ・ほげます
- ・死なづける
- ・褒める
- ・罰金だす・罰く
- ・判断させる
- ・主体性を育てる

BAD!  
やっ  
ほしくないこと

- ・怒る
- ・怒鳴りつける
- ・指示ばかりする
- ・威圧する
- ・判断させない
- ・支配する

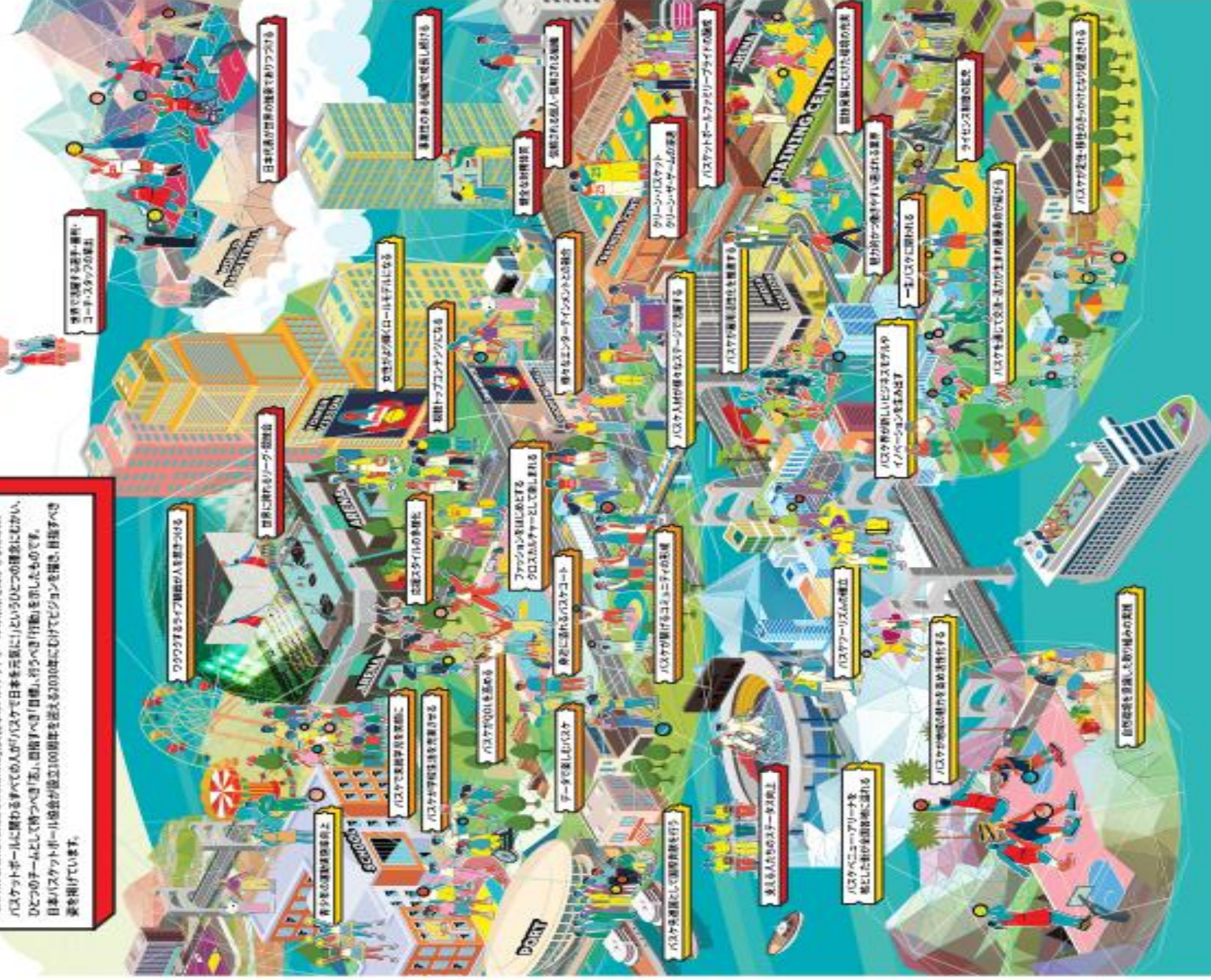


# バスケットで日本を元気に!

## JAPAN BASKETBALL STANDARD



「JAPAN BASKETBALL STANDARD」は、日本のバスケットボールの未来を輝かせるために、バスケットボールに関わるすべての人がバスケットで日本を元気に！という心ひとつの理念にかみ、ひとつの子供として持つべき「高い目標を持つ」「目標に向かって行動し行動したものである」、日本バスケットボール協会が設立100周年を迎える2010年に向けてビジョンを描き、目指すべき姿を掲げています。



- SPORTS** 日本バスケットボール協会の活動を通じて、バスケットボールの普及を促進し、健康な生活を送ることを目指す。
- CULTURE** バスケットボールを通じて、国際文化交流を促進し、世界とつながることを目指す。
- SOCIETY** バスケットボールを通じて、社会貢献を促進し、地域社会の発展に貢献することを目指す。

### JAPAN BASKETBALL STANDARD 2025

2025年までに、バスケットボールを通じて、健康な生活を送ることを目指す。バスケットボールを通じて、国際文化交流を促進し、世界とつながることを目指す。バスケットボールを通じて、社会貢献を促進し、地域社会の発展に貢献することを目指す。

バスケット JBS

